

(単元) 詩 心のうた

(本時のねらい)

第1連についての自己と他者の絵を比較することで、詩句に即して読み取れていたかを確認し、第1連に込められた作者の心情を詩句に即して理解する。

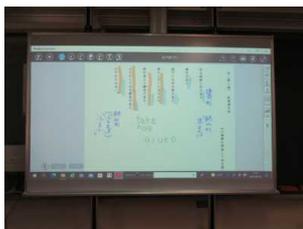
(ICT活用方法)

詩の詠まれた情景を具体化するために、絵に描くことを取り入れる。描画の苦手な生徒でもあまり抵抗感を感じず、楽しんで活動できるように生徒1人1台端末を使用して絵を描き、電子黒板に映して、皆に提示する。また、時間を有効活用するために電子黒板に詩を映して書き込む。情景を視覚的に具体化し、詩の理解を深めるため写真も電子黒板に映して提示する。

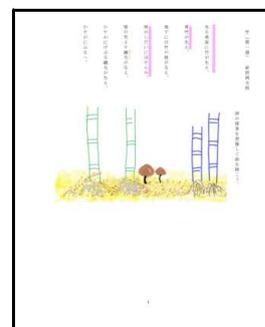
(本時の展開)

時間	学習活動	指導事項	I C T活用方法
導入 5分	・前時の振り返りをし、本時の目標を知る。	・電子黒板を使って本時の目標を説明する。	
展開 40分	・第1連の自己の絵について発表し合う。 ・第1連の内容を理解する。	・絵と詩句を比較しながら説明し、発表させる。 ・詩句の意味を理解させ、表現の特徴に気づかせる。	・発表者の絵を詩とともに電子黒板に提示する。 ・詩を電子黒板に映し、説明を書き込む。また、詩の理解を深めるための写真を提示する。
まとめ 5分	・本時の学習内容を振り返る。	・自己の絵を、本時の学習内容を反映したものに描き換えてもよいことを知らせる。	・他者の発表や詩の読みを通して、作者の心情についての理解を深めようとしている。

(授業の様子)



教材を電子黒板に写し説明を書き込んだもの



使用したワークシートに生徒が描画したもの

## 20104 現代文 B\_3\_個別\_詩「心のうた」

(生徒の反応と課題，改善を要する点)

生徒1人1台端末を使用することに生徒は楽しさを感じているようで，絵の苦手な生徒からも「描きたくない。」などの発言はなく，意欲的かつ楽しそうに描画に取り組んでいた。そのため，絵を描くことで満足していた様子も見られたので，本当にICT利用が必要なかをじっくり考え，確認しておかなければならないと実感した。